

ボランティア・
NPOの情報誌

ひび

62号

Jan. 2023

とくしま県民活動プラザ

〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地
沖洲マリンターミナルビル1F

tel:088-664-8211 fax:088-664-5345

e-mail:info@plaza-tokushima.com

https://www.plaza-tokushima.com

休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日、年末年始)



マスコットキャラクター プラザ

CONTENTS

特集 総合型地域スポーツクラブ
NPO法人 海陽愛あいクラブ
理事長 若井 孝司さん

ひと 元車いすテニスプレイヤー
岡部 裕子さん
～ 大事なことは、自分がどれだけ楽しめるか～

シリーズ この人から
NPO法人 阿波農村舞台の会
理事・事務局長 佐藤 憲治さん
日本人の感性が宿る人形

事業報告
「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業の活動報告

ハートリレー
No.62 住瀬さんから岩崎さんへ

総合型地域スポーツクラブ NPO法人 海陽愛あいクラブ



10周年を迎えました!!



設立10周年記念ウォーキング大会

スポーツに親しんでいる町民が多い中、競技スポーツをしていない子どもや高齢者にもいつでも気軽にスポーツを楽しんでもらえるようにと、旧3町(海陽町・海部町・穴喰町)のスポーツ推進委員が主となって3町の方たちが利用できる総合型地域スポーツクラブ(注1)を立ち上げることになりました。

そんな中、運命の出会いがあったんです。“何かしたい”とアツい想いを持った現クラブマネージャー(注2)の鶴さんが私たちに声をかけてきてくれたのです。思えばその日から、彼女は本当に頼りになる存在です。

遠くに来ることができない方にもどうにか運動してもらえないかとの思いから始まった“送迎付き体操講座”では、参加者の自宅から近くの公民館までを私が送迎しています。皆さん、この日を楽しみにされているので、私も体力の続く限り運転させていただきたいと思っています。

今、心配しているのは、後継者問題です。人材の確保と何か良い育成方法はないものかと頭を悩ませています。



理事長
わかい たかし
若井 孝司さん

(注1) 総合型地域スポーツクラブとは
地域の人々に年齢・興味・関心・技術技能レベル等に応じた様々なスポーツの機会を提供する「多目的」「多世代」「多志向」のスポーツクラブのこと。

(注2) クラブマネージャーとは
総合型地域スポーツクラブ全体の経営管理(マネジメント)を行う立場にある人のこと。

愛あいクラブの4本柱

I スポーツ教室の開催

- 会員向け教室
- 一般向け特別教室
- ZOOMによるオンライン対応の教室



II スポーツ体験やイベントの開催

- ウォーキング
- 地域の特性を活かし地域環境の素晴らしさやスポーツの楽しさを体感
「シーカヤック・サップ体験」
「サーフィンスクール」
- スポーツツーリズム
町内の自然の中でのヨガ教室など自然を満喫しながらのスポーツ体験



他の団体とコラボしているよ!

- NPO法人あつかがいようが主催するイベント内の「**スポーツ教室**」
- 海陽町体育協会サーフィン部と連携した「**サーフィン教室**」
- 海南B & G海洋センターでの「**アクアビクス**」

総合型地域スポーツクラブ NPO法人 海陽愛あいクラブ

〒775-0302 海部郡海陽町奥浦字新町44 TEL/FAX 0884-73-3960



2012年 海陽愛♥あいクラブ設立

2018年 NPO法人海陽愛あいクラブに名称変更
(名称にはなくなったけれど、今も「♥」はある!)

2022年 クラブ設立10周年!! 記念のウォーキング大会開催!

III トレーニングジム 運営

- ジム利用
- パーソナルレッスン
若者や男性の利用者が増加!



IV 受託事業

- 介護予防事業
集落ごとに出向いていき運動を継続できるようサポート
「かしよう元気体操」
- 運動指導
特定健診時、保健師・歯科衛生士・栄養士とともに運動指導士として運動面からのケアを行う
- かしよう健康ポイント事業
健康に関することをしてお得な商品ももらいながら健康づくりをサポート
- コロナに負けない体づくり事業
「血圧計を一家に一台プロジェクト!」



以前は大阪のスポーツクラブでインストラクターをしていました。その経験や健康運動指導士ということもここで活かすことができると思い、地域総合型スポーツクラブに思い切って声をかけました。設立当初は、海部公民館1階にあるクラブハウス内に小さな器具を置いて手狭に運営していましたが、3階への移転とともに新たにトレーニングジムを整備したところ、海陽町には、こうした施設がなかったため、若者や男性会員が一気に増えました。

また、地域の特性を活かした、マリンスポーツにも力を入れています。特に地元では、サーフィンをやったことのない人が多かったんです。そこで、“町民にもサーフィン体験を”との想いでサーフィン教室を始めました。

ウィズコロナに対応したオンラインとオフライン同時開催の教室を実施し、本年度は、新たに地域の介護施設にも介護レクの配信を行い、参加者から好評を得ました。

課題は、クラブができて10年経っても、まだ存在自体を知らない町民がいるので、もっともっとPRしてたくさんの方に知ってもらうことです。世代がかわっても続けていけるクラブづくりを目指しています。

そのためには、活動資金が必要です。継続して収益を生むやり方はないものかと思案しています。



クラブマネージャー
つる まさみ
鶴 真美さん



～ 大事なことは、 自分がどれだけ楽しめるか ～

今回は、2度のパラリンピック出場という輝かしい経歴を持つ、元車いすテニスプレイヤー岡部裕子さんにお話を伺いました。

6歳の時、突然歩けなくなった岡部さん。当時ショックを受けたというよりは、できなくなったことが1つ増えたという感覚で、周りからの「かわいそう」「してあげる」という言葉にとっても違和感を感じていました。“私のように歩けなくなったらみんなはどうやって生きていくんだろう”と、この状況を子供ながら冷静に捉えていたそうです。当時は、福祉設備、環境が整っていなかったこともあり、両親と離れ6歳から12年間施設生活という選択肢しかありませんでした。施設での生活はなんだか管理されている気がして、自分は何のために存在しているのだろうと思う日々。10歳の時には“車いす生活では何も出来ないと思っている人たちに、テニスですごいプレイができる場所を見せつけば、一瞬で偏見を取り去れるのではないか”と妄想するようになったそうです。



元車いすテニスプレイヤー
おかべ ゆうこ
岡部 裕子 さん
1976年生まれ 那賀町出身

車いすテニスを始めたきっかけは、21歳の時。近所にテニスクラブができたことを知り、幼い頃から胸にあった熱い思いがこみ上げ、自らクラブに申しかけました。しかし、日本では障がい者がスポーツをするのはまだまだ異例。練習場所、試合や遠征で宿泊先を探すにも設備が整っていないという理由で断られるのが大半です。施設で過ごし、このような社会の厳しさを知らずにテニスを始めたこともあり、楽しみたいのに楽しめないというのが現実でした。

仕事をしながらの選手生活は、起床→トレーニング→練習→深夜まで仕事→就寝の繰り返しで、常に時間に追われる厳しい生活。しかし、体力的な辛さよりも一番大切な家族に迷惑を掛けたくないという思いで、言いたいことを我慢してきた12年間の辛さの方が大きかった。子供の頃から自分で「やりたい」「できる」と思うことを、周りの人がやってくれていた環境とは違い、自分でやりたいことを、好きなように自己表現できる解放感と挑戦できるワクワク感が喜びとなってテニスに打ち込めたそうです。

「近年、福祉設備、環境など徐々に改善されてきていますが、まだまだ障がい者と健常者の間に壁があると感じています。私の経験してきたこと、思いなど当事者だから気が付くことを講演や取材で発信し、障がい者も健常者と同じであるということを広めていきたい。たくさんの経験を経て、自分が生きてきた人生にも価値があったと思えるようになった今、ひとりの「人」として自分らしく生きていく楽しさを伝えていきたいです。」と楽しそうに語る優しい笑顔の裏に、トップアスリートとして戦い抜いてきた力強さを感じる一面もありました。

(取材：森口・佐藤)



これまでの実績



世界ランキング
最高位

シングルス 16位
ダブルス 13位

- ☆2008年 北京パラリンピック出場
- ☆2012年 ロンドンパラリンピック出場
- ☆2020年 東京パラリンピック
徳島県代表聖火ランナー

シリーズ この人から

日本人の感性が宿る人形

NPO法人 阿波農村舞台の会 さとう けんじ
理事・事務局長 佐藤 憲治



人形劇というのは、世界で最も自由な表現形式であると言える。人間が演じるというだけで身体的な制約があるが、何を表現したいかによって、何も無いところから人形をつくり、その操り方も自由に考えることができるのが人形劇である。上から糸で操るマリオネットや、下から棒で操る棒遣いなど、世界中に今もいろいろな人形がある。

そこには、どんな表現を大切に、何を伝えたいかという、その国や地域の人々の価値観が現れていると言えるだろう。世界でも他にないと言われる、日本の三人遣いの人形は、3人で操るから表情を変えたり、指先まで動かすことができる。逆にあまり早く動けないのが欠点であるが、スピード感よりも繊細で丁寧な表現を重視する日本人の感性が宿っていると言えるだろう。

名所旧跡を巡る従前の観光から、その土地の風土や歴史を知り、日本人の暮らしや感性に触れることこそが、日本を訪れる外国人にとって最も感動するコンテンツになると考えている。日本人の感性が色濃く宿る芸能を通じて、国内外のさまざまな地域と、ひとつずつ丁寧に、一歩踏み込んだつながりをつくっていくことが、徳島の活性化に向けて私たちのできることだと考えている。



おつるを抱きしめるお弓

「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業の活動報告

「ゆめバンクとくしま」では、団体、個人からの寄付を助成金として活用し、社会貢献活動に役立てています。今回は、令和4年度の活動(その1)です。



びーんず

「おそとでわらべうたとお話の世界
びーんずびくにつく」

絵本やわらべ歌、また海岸散歩などを通して、風通しの良い親子関係を築いていけるようサポートを行った。



NPO法人 竹林再生工房がぐや乃さと

「竹林の美化と竹の再生を行うことで
環境問題に繋げる」
放置竹林を間伐伐採し、粉砕機により竹パウダーや竹チップを作成し、有機農法に利用したり、幼竹を使ったメンマ作りに取り組んだ。



NPO法人 あまべマチ猫ネット

「動物愛護の普及・啓発
及びTNR事業」

不要な繁殖を防止、過酷な環境で亡くなっていく猫を減らすために、TNR活動(野良猫を捕獲して不妊・去勢手術をして、元の場所に戻す活動)を実施した。



茶と菓の集FRIENDS会

「海外からの研修生に
日本文化の紹介と研修後のアドバイスや相談」



海外からの研修生に、茶道と手作り和菓子の教室を開き、日本文化の良さを伝えると共に、皆で語らう時間を設け、リフレッシュできる心地よい時間を過ごしてもらった。

つばき夢トンネル コスモス会

「コスモス花いっぱい事業」

コスモスの種を蒔き、花を咲かせることで、潤いと安らぎのある美しい環境を整え、町の活性化を図った。





No.62 住瀬さんから岩崎さんへ



徳島県スキー連盟 理事
いわさき ひろかず
岩崎 寛和 さん

スキーの普及・発展のために

岩崎さんと知り合ったのは、2008年-2009年シーズンの全日本スキー連盟(SAJ)スキー準指導員検定受験のための養成講習会の時でした。準指導員検定合格を目指しシーズン中は切磋琢磨し無事に受験者5名全員が合格となりました。以降、徳島県内唯一の井川スキー場でのインストラクター活動を12年間に渡り継続しています。平日は近隣の小中学校のスキー体験学習指導、土日はスキースクールやスキー検定の対応。さらに岩崎さんは、徳島県スキー連盟教育部の部長としてスキー指導における安全対策や有資格者のインストラクター活動の運営などスノースポーツの普及・発展に貢献されています。シーズンオフは阿波踊りにも注力されており所属されている有名連でも主体的に活動され、地元では阿波踊りの指導もされるなど1年を通して社会貢献活動をされています。本業でも多忙な毎日を送りながらの活動には脱帽です。私よりもずっと年上ですがその行動力を見習ってこれからも貢献活動を継続していきたいと思ひます。



すみよし あきよし
文・住瀬 秋彦

編集後記

ふと立ち止まり、初心を振り返るたび、周りの人に支え助けられ今ここにいることを改めて実感します。たくさんの方たちと出会い、つながりを作ってくれるここでの時間が大好きです。これからも、つながりに感謝しながらいつも笑顔で。そして出会いを大切に。“あなたがいてくれて良かった”と思ってもらえる私でありたいと思ひます。(日下)

とくしま県民活動プラザ

- プラザ開館時間 開館時間：10:00～18:00
- 【研修室利用時間】 火曜日～土曜日：10:00～21:00
- 日・祝日：10:00～18:00
- 休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始(12/29～翌1/3)



● 公共交通機関をご利用の場合 ●

- JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、
- ・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ
- ・「沖洲・南海フェリー前(マリンピア経由)」行きに乗車「マリンターミナル前」下車すぐ

徳島県医師会は「禁煙」を推進しています!



一般社団法人
徳島県医師会
会長 齋藤 義郎
徳島市幸町3丁目61番地
TEL 088-622-0264

一生、いい歯と付き合うために。

「成人歯科健診を推進しています」
ホームページ
一般社団法人
徳島県歯科医師会
会長 松本 侯
徳島市北田宮1-8-65 電話 088-631-3977



吉野川交流推進会議 徳島県庁 未来創生政策課内
TEL:088-621-2743 FAX:088-621-2758



参加団体募集中!!

HPはこちらから!

2023年度生(2023年4月1日学習開始)願書受付中! 教育訓練給付制度対象講座 ※「社会福祉学科 一般養成課程(1年コース)」は申請中です。

社会福祉学科 通信課程

一般養成課程 (1年6ヶ月コース)
一般養成課程 (1年コース)

短期養成課程 (9ヶ月コース)

精神保健福祉学科 通信課程

一般養成課程 (1年7ヶ月コース)

短期養成課程 (9ヶ月コース)



詳しくはこちらからHPをご覧ください。

好きを極めてプロになる

徳島県立 徳島大学
徳島大学バディシエ福祉カレッジ
〒760-0021 香川県高松市西の丸町14-10
TEL.087-873-2455

213号

January
2023

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

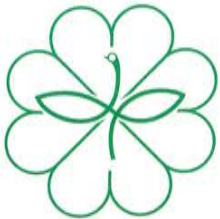
〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内

tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250

e-mail: info@e-fukushi.jp https://fukushi-tokushima.or.jp/

「地域の安心」を 未来へつなぐ

民生委員・児童委員 一斉改選



民生委員・
児童委員のマーク

令和4年12月1日に
民生委員・児童委員の
一斉改選が行われ、
2022名(内、新任530
名)の方が新たに選任
されました。民生委
員・児童委員は、民生
委員法や児童福祉法に

基づき厚生労働大臣から委嘱されており、住民の困りごとや悩みを受け止め、適切な機関・専門家につなぐ「住民に最も身近な援助者」として期待されています。

徳島県社会福祉協議会は、民生委員・児童委員と共に地域福祉を推進し、県民一人ひとりが、お互いに支え合いながら身近な地域で、その人らしく、安心して生き生きと暮らせる福祉社会の実現を目指しています。

子ども民生委員活動

「子ども民生委員制度」は、戦後の混乱期中、戦災孤児や貧しさから非行に走る子どもたちの生活を憂いた徳島県民生委員連絡事務局・平岡国市氏の提唱により、子どもと平和を結びつけた活動として創設されました。この活動はたちまち県内に広がり、小・中学校、そして各地域を母体とする地域子ども民生会が組織されました。

徳島県民生委員児童委員協議会では、民生委員制度創設100周年を機に、子ども民生委員活動推進事業をスタートしました。毎年、各地域で子ども民生委員活動が実施され、多世代との交流活動や校区内の交通安全運動など、地域の特性に合わせた活動を民生委員・児童委員と共に取り組んでいます。

わたしたちの町を知る「校区探検」



吉野川市山川地区民生委員児童委員協議会

交通安全の啓発を行う「鼓笛隊」



三好市池田地区民生委員児童委員協議会

第66回徳島県社会福祉大会

令和4年11月29日、あわぎんホールにおいて「第66回徳島県社会福祉大会」を開催しました。永年にわたり社会福祉の推進に功績のあった方々に敬意と感謝の意を込めて表彰するとともに、「誰もが、身近な地域で、その人らしく、安心して生き生きと暮らすことのできる福祉社会の実現」と、「さらなる地域福祉の向上」に向け、その具体的な取り組みを進めることを大会宣言として採択しました。

栄えある表彰並びに感謝状を受賞された皆様に心からお祝い申し上げますとともに今後益々のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

(主催：徳島県／徳島県共同募金会／徳島県福祉基金／徳島県社会福祉協議会)

【被表彰者・感謝状被贈呈者】被表彰者数 432名・68団体、感謝状被贈呈者数 4団体

名誉大会長表彰（知事表彰）

- ◆民生委員・児童委員功労者 6名
- ◆ボランティア功労者・団体 37名・9団体

◆社会福祉事業功労者 42名

大会長表彰（県社会福祉協議会会長表彰）

- ◆民生委員・児童委員功労者 150名
- ◆社会福祉事業功労者・団体 138名・3団体
- ◆ボランティア功労者・団体 44名・17団体
- ◆自立生活の模範となる者 2名

大会長感謝（県社会福祉協議会会長感謝）

- ◆4団体

大会長表彰（県共同募金会会長表彰）

- ◆個人の部 13名 ◆団体の部 39団体



子どもの居場所づくり意見交換会



令和4年11月5日（土）に、県立総合福祉センターで、子どもの居場所づくりに取り組む6団体の代表者と鳴門教育大学大学院の木村直子准教授、そして飯泉知事が一堂に会し意見交換が行われました。

子ども食堂の開設から学習支援、さらに地域交流へと創意工夫あふれる活動で子どもたちに寄り添った支援を展開している団体のみなさんから体験談を話していただき、木村直子准教授から、子どもたちを支援する方々や学校、大学、行政等との連携の重要性について報告をいただきました。飯泉知事からは、今日の家庭環境における子どもを取り巻く食生活の変化から、子ども食堂の役割が非常に大きくなっている現状や、昨今の物価高騰によりその子ども食堂の運営が厳しくなっている課題を踏まえ、県産食材で作った商品を県が買い上げ、子ども食堂やユニバーサルカフェに提供するスキームを予算編成の柱の1つに掲げ応援していきたいと、心強い激励をいただきました。

徳島県社会福祉協議会でも「とくしま子どもの居場所づくり推進基金」助成金や、きめ細やかな相談支援、広報活動を通じて、引き続き県や関係者の皆様と連携を深め、子どもの居場所づくりの支援を続けて参ります。



「とくしま子どもの居場所づくり応援サイト」

<https://t-ibasyo.com/>



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
地域福祉課 子どもの居場所づくり推進事業担当
TEL. 080-8633-1657 FAX. 088-654-9250
メール ibasyo@tokushakyo.jp

テーマ募金にご支援ご協力をお願いします。

徳島県共同募金会

徳島県共同募金会では、令和5年1月から3月末にかけて新たな手法による募金活動として、次の2団体がそれぞれ主体的に募金を呼びかける事業（テーマ募金）に取り組んでいます。このテーマ募金は、地域の様々な社会課題の解決に向けて、NPO法人等の活動に必要な資金を募集するものです。皆様からの温かいご支援・ご協力をよろしくお願いします。



テーマ募金の内容を紹介します。

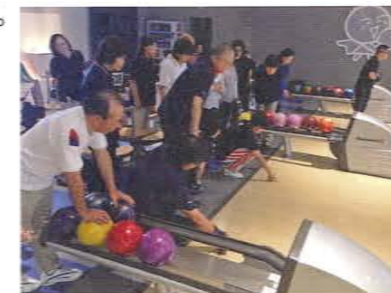
知的障がいがあるひとたちとスポーツでつながる

認定NPO法人

スペシャルオリンピックス日本・徳島

スペシャルオリンピックスの使命は、知的障がいのある人たちに継続的にスポーツトレーニングと競技の場所を提供し、健康を推進し、地域の人々と友情を分かち合う機会を継続的に提供することです。

徳島県内においてこの取り組みを拡大するために、ご支援をお願いします。



- 募金目標額 30万円

生活困窮者に対する生活用品貸与（給付）事業

とくしま・くらしサポートセンター

（県社会福祉協議会）

生活困窮者の就職活動等に向けた一歩を応援しています。この事業で取り扱う生活用品とは、スーツや自転車など、就職活動や就労継続のために必要な物のほか、炊飯器や電子レンジなど、自炊等に必要な物品のことで、皆様の応援をよろしくお願いします。



- 募金目標額 10万円

つながりをたやさない社会づくり

～あなたは一人じゃない～



ひとりも取り残さない 在宅被災者支援に向けた 災害ケースマネジメント

一般社団法人 さいわい 代表理事 **井若 和久**



内閣府は、2022年3月に、地方公共団体における災害ケースマネジメント実践の参考として『災害ケースマネジメントに関する取組事例集』を発行しています。事例集では、先進的な8つの地方公共団体の取組事例が紹介されており、ほとんどの事例でNPOとの連携がなされていますが、その中でも中間支援組織が中心的な役割を担った2事例を紹介いたします。

2016年台風第10号の岩手県岩泉町では、2017年1月にNPO法人フードバンク岩手と岩手弁護士会が主体となり、町、岩泉町社会福祉協議会等と協力して、被災者支援のための中間支援組織となる岩泉よりい・みらいネットを設置(2018年から一般社団法人)。被災者の相談窓口を設置し、住家被害の有無に関係なく、被災による困りごとや悩みごとといったあらゆる課題を、相談窓口を通じて解決に導くという手法により、官民が連携をしながら、岩泉町全体の被災者の生活再建を進めることができました。民間資金と厚生労働省のモデル事業などを活用し、複数の財源を組み合わせて、被災者支援を実施した事例としても評価されています。

2. 災害ケースマネジメントにおける 中間支援組織の取組事例

1. 中間支援組織とは?

中間支援組織をご存知でしょうか? 中間支援組織とは、一言で言えばNPOを支援するNPOといった存在です。いろいろな捉え方があり、必ずしも明確に定義があるわけではありませんが、その機能、役割としては、主として、①資源(人、モノ、カネ、情報)の仲介、②NPO間のネットワーク促進、③価値創出(政策提言、調査研究)といった点があげられる場合が多いようです。

徳島県の中間支援組織とえば、まさにこの「とくしま福祉広報リプル」を発行している「徳島県社会福祉協議会」とくしまボランティア推進センターがある「とくしま県民活動プラザ」が思い浮かぶと思います。(一社)さいわいも、2020年5月に、徳島における事前防災・災害支援の中間支援組織の一役を担うことを目指して、大学研究者・技術士・建築士・弁護士・社会福祉士・作業療法士・NPOの有志で設立しました。

3. 徳島県での 災害ケースマネジメントと 中間支援組織の取組

また、2016年鳥取県中部地震の鳥取県では、2017年4月に、鳥取県から公益財団法人とつとり県民活動活性化センターへ業務委託する形で、中間支援組織となる震災復興活動支援センターが設置されました。設立当初は、地震からの復興に向けて、地域住民による防災力の向上や地域の元気づくり活動、コミュニティ・絆の強化を目的として、住民やNPOの活動を支援してまいりました。その後、NPOや地域住民による支援活動を通じて地域の支援ニーズを拾い上げていく中で、屋根等の修理が進まずブルーシートを外すことができない住宅が一定程度確認されたことから、個別の支援の必要性が認識されるようになり、鳥取県及び震災復興活動支援センターを中心に、市町職員、市町社会福祉協議会職員等と協力しながら、個別訪問や相談支援等を行い、課題解決につなげています。

徳島県では、2022年6月に、南海トラフ巨大地震等の震災対策において「誰一人取り残さない」ための条例改正が行われました。また徳島県災害ケースマネジメント推進協議会を設置し、災害ケースマネジメントの手引書の作成や訓練に取り組みしており、今後は人材育成や中間支援組織の育成を図っていく予定です。

(一社)さいわいでも、2021年度から、徳島県徳島県社会福祉協議会、徳島県士業ネットワーク推進協議会、日本防災士会徳島県支部、徳島大学等にご協力いただき、被災地で災害ケースマネジメントを実践してきた県外の中間支援組織と一緒に、徳島に災害ケースマネジメントのノウハウを移転するための「災害ケースマネジメント研修IN徳島」を計4回開催しています(第1回と第2回はハイブリッド開催のため、YouTubeで研修内容をアーカイブ配信しておりますので是非ご覧ください)。これまで県内外から延べ150名以上が参加、知識や技術を学ぶだけでなく、災害前から人や組織が出会い繋がる場にもなっています。次回は、2023年2月12日(日)に徳島市内で開催予定です。今回は、ご興味をお持ちいただけましたらご連絡いただければ幸いです(iwakaka@saiwai.or.jp)。

ありがとうございます

預託

- 三谷順子様より県内26施設(団体)へ未使用食器類の御寄贈
- 株式会社レディ薬局様・クラシエホールディングス株式会社様より県内5施設(団体)へ車いすの御寄贈
- 一般財団法人徳島県観光協会様より徳島県社会福祉協議会へ備蓄用飲料水の御提供



収穫祭

ルキーナ・うだつに就職して4年目になります。私は大学生の時から、障がいを抱える人達と関わる仕事がしたい、障がいを抱えるお子さんを持つ家族の力になりたいと思っていました。きっかけは、大学に在学中、親戚の知的障がいを抱えた子(A君)が、行動

障害によって家族に怪我をさせてしまった事です。当時、大学の講義で発達障害や知的障害について勉強していた時、障がいを抱えているお子さんを持つ家族の力になりたいと思っていました。きっかけは、大学に在学中、親戚の知的障がいを抱えた子(A君)が、行動

A君は元々、家庭で生活していたのですが、重度の知的障害を抱えていた事もあり、障がいの怪我を機に、障がい者施設に入所する事になりました。話を聞いた時はとても驚いて、様子を見に行きたいと何度も思いましたが、遠くの県に住んでいた事、自身が在学中であった事もあり、たまたまに電話で話を聞く事しかできませんでした。しかし、話を聞く中で、A君が施設に入所したこと、家庭で過ごすより情緒や行動が安定していること等を聞き、A君のような子の力になりたい、A君のような子供を持つ家族を支えたい、



ハロウィーンイベント

と、障がい者福祉に関わる仕事がしたいという気持ちで明確になりました。

ルキーナ・うだつで働き始めると、沢山の利用者さんに出会い、利用者さんの純粋さ、そして、利用者さん1人1人が沢山の生きづらさを抱えて生活しているのを知りました。素直に物事を受け止めるその姿の中に、自分の気持ちに伝えない、衝動を抑えよう・等、沢山の困難を抱えて生活しているのだと。また、それらによって自傷や他害が起こってしまったり、こだわりの強化に繋がってしまったり、より生きづらさを抱えるようになってしまった方もいました。個々の障がい特性にあった支援をすべきではあるものの、働き始めて4年目の今でも、理解しきれない部分があると感じます。支援していく中で、利用者さんが楽しく過ごしていけるように

地域とお客さまの「ベストパートナー」へ



阿波銀行
http://www.awabank.co.jp/

ともに未来へ
~ to the future with ... ~



ふくしと私



社会福祉法人徳島県手をつなぐ育成会
障害者支援施設 ルキーナ・うだつ
生活支援員 藤本みなみ

令和4年度とくしまボランティア体験月間標語コンクール

ボランティア活動への理解と参加の促進を図るため、次代を担う本県の中学生・高校生を対象に、各学校の夏季休暇期間を「ボランティア体験月間」とし、ボランティア活動体験から得た学びや想いを表現した標語を募ったところ、総数989名(中学生の部11校859名、高校生の部6校130名)から応募いただきました。審査を経て中学校の部で最優秀賞1点、優秀賞4点、高校生の部で最優秀賞1点、優秀賞4点を選定し、表彰式を執り行いました。最優秀賞作品については、ポスターを制作し、学校や関係機関へ配布する等、ボランティア活動の啓発に活用をさせていただきました。

中学生の部 最優秀賞

『ボランティア 少しの勇気が 誰かの笑顔に』

阿波市立阿波中学校2年 坂東 孝哉 さん

「在籍する剣道部で登校前の草取りや生徒会と一緒に挨拶運動を行っています。挨拶運動を始める前は少し恥ずかしかったですが、「おはよう」の言葉で自分も周りも笑顔になれ、勇気を持って続けることの大切さを学びました。」

高校生の部 最優秀賞

『気づくこと 心からはじまる ボランティア』

徳島県立富岡西高等学校1年 前川 真緒 さん

「JRC部で参加した阿南市の海岸清掃で、地域の人たちが熱心にごみを拾う姿を見て、感じた思いを表現しました。周囲が何を必要としているのかを察して、行動する心が大切だと気づきました。今後も自分にできることを常に考えて取り組んでいきたいです。」



中学生の部 優秀作品

- ・『自分から手を差し出せる人になる』
- ・『ボランティア 小さな行動 大きな未来』
- ・『ふみだそう その手がつなぐ心の輪』
- ・『支えあい ふみ出す一歩で 変わる世界』

高校生の部 優秀作品

- ・『地域の輪 小さなことから 広げよう』
- ・『ボランティアで届ける 夢と 思いやり』
- ・『あなたの頑張りが 誰かの「ありがとう」へ』
- ・『募金活動 想いも一緒に 届けてる』

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和4年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

保険金の種類	プラン	基本プラン			
		基本プラン	天災・地震補償プラン	【新設】特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円			
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額	6,500円			
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円		
		外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円			
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外 ^(*)	初日から補償		
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷	×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)			
年間保険料		350円	500円	550円	

*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 保険会社 TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
 この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667
 受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)